

現代経営学演習（8単位）

担当教員 松尾貴巳

mats@kobe-u.ac.jp

I. 研究テーマ

専門職学位論文の作成に関する研究指導を行います。中心的な領域は、営利/非営利組織における業績管理、予算管理、原価計算、コストマネジメントなどのマネジメント・コントロール分野であり、組織の戦略や目的を実現するためにどのように管理の仕組みをデザインすれば良いのか、また、製品やサービスのミックスなどの意思決定を行ううえで、どのような意思決定情報を提供すれば良いかについて検討したいと思います。

マネジメント・コントロールは、戦略や組織構造、企業文化、人的資源開発など多様な領域との関連性を考慮することが求められるという点で、研究テーマを幅広く扱うことができますが、「経営管理の仕組みをデザインする」、「非財務指標を含む会計情報」という点にこだわって研究したいと思います。

II. 今年度の目標

専門職学位論文は学術論文としての構成要素、すなわち、問題意識、研究課題、研究仮説、先行研究、メソドロジー、分析結果、ディスカッション、結論などの要素を兼ね備えている必要があります。また、導き出される結論は、自分や自分の組織にとって有意義であると共に学術的にあるいは社会に貢献できることが期待されています。

本年度は、論文作成プロセスに関する以下の点について取り組み、各自の研究課題を明らかにすると共に、どのようなメソドロジーで分析するかというところまで到達したいと思います。

- ① 各自の頭の中にある漠然とした問題意識を明確にし、価値の高い研究課題を明らかにすること。
- ② 論文として兼ね備えるべきエレメントを理解し、分析のメソドロジー（研究課題を分析するための方法論）を理解すること。
- ③ 研究課題に関連する先行研究について理解を深めること。

それぞれの主な取り組み方法は、ディスカッション、研究方法論の知識獲得、研究課題関連領域の文献研究ですが、ディスカッションを通じて先行研究に対する理解が深まり、また、文献研究やメソドロジーの検討を通じて研究課題が明らかになることもあるという点で相互に関連しています。

Ⅲ. 講義内容とスケジュール

回	日程・時間	テーマ	内容
1	8月15日 ③④⑤	・オリエンテーション ・自己紹介, 各自の問題意識の共有 ・論文とは何かについての意識の共有	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゼミの目的, 目標についての解説。 ➤ 各自自己紹介を行い, 現時点での各自の問題意識について説明し, 互いにどのような問題意識を抱えているかについて共有する。 ➤ 何のために論文を書くのか, どのようなものを論文というのかについて意識を共有する。 ➤ 福嶋先生による MBA 論文執筆の実際。 ➤ 先行研究とは何か, またどこまでレビューすべきかなどの論点を解説。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ テキスト1-4章および11-12章の読了 ➤ わかりにくい点をA4で2枚程度に整理してくる。
2	9月12日 ③④⑤	・研究方法論について学ぶ(定量的方法論)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 研究方法論について, 定量的なアプローチの特徴を理解する。 ➤ サーベイ・実験室実験について検討する。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ テキスト7-8章の読了。 ➤ 福嶋 MBA 論文の読了(サーベイ)。 ➤ 佐久間・妹尾・新井・末松(2015, 原価計算研究)の読了(実験室実験)
3	10月17日 ③④⑤	・研究方法論について学ぶ(定性的方法論)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 研究方法論について, 定性的なアプローチの特徴を理解する。 ➤ インタビュー等のリサーチ手法の具体的な進め方について検討する。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ テキスト9-10章の読了。 ➤ 福嶋・新井・松尾(2014, 会計プロGRESS)の読了(アーカイバル) ➤ 松尾・大浦・新井(2008, 管理会計学)の読了(フィールド・スタディ) ➤ 松尾(2014, 管理会計学)の読了(アクションリサーチ)
4	11月7日 ③④⑤	・MBA 優秀論文についての批判的検討	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 過去の MBA 優秀論文をとりあげ, 研究課題の意義, リサーチ・デザイン, 分析手法などの観点から, 批判的に検討し, グループ単位で発表する。
5	12月19日 ③④⑤	研究報告(1)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各自が抱えている問題意識と, どのような研究課題になるかについて各自発表する。 ➤ 研究課題(意義), 先行研究, メソドロジー(研究方法論)について各自が発表する(1人の発表に対して2人がコメント)。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発表資料の準備
6	1月30日 ③④⑤	研究報告(2)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 研究課題(意義), 先行研究, メソドロジー(研究方法論)について各自が発表する(1人の発表に対して2人がコメント)。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発表資料の準備
7	2月20日 ①②	研究報告(3)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コメントをふまえた改善箇所について各自発表する。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発表資料の準備
8	3月26日 ①②③④⑤	研究報告(4)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コメントをふまえた改善箇所について各自発表する。
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発表資料の準備

IV. 成績評価の方法

学位論文審査結果を基本としますが、ゼミに対する貢献度、出席もふまえ総合的に評価します。

V. テキスト、課題論文の準備

- ・ テキスト：平松一夫監訳（2015）『会計学の研究方法』中央経済社：各自購入
- ・ 論文等の文献：ダウンロード等による配布

VI. 参考文献

- ・ 伊丹敬之（2001）『創造的論文の書き方』有斐閣。
- ・ 盛山 和夫(2004) 『社会調査法入門』 有斐閣。
- ・ G.キング, R.O.コヘイン, S.ヴァーバ, 真淵 勝（翻訳）(2004) 『社会科学の研究・デザイン-定性的研究における科学的推論』 勁草書房。
- ・ ティム メイ, 中野 正大（翻訳）(2005) 『社会調査の考え方—論点と方法』 世界思想社。
- ・ John W. Creswell , 操 華子（翻訳）, 森岡 崇（翻訳）(2007) 『研究デザイン-質的・量的・そしてミックス法』 日本看護協会出版会。
- ・ 田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン 経営知識創造の基本技術』 白桃書房
- ・ 田尾雅夫, 若林直樹（2001）『組織調査ガイドブック』 有斐閣。